

道徳教育

高橋 明子

自己の課題を解決し続け、 よりよい生き方を探究する学習

－育てたい道徳性の諸様相を明確にした学びの連続を通して－

I 道徳科及び道徳教育研究の方向性

1 主題設定の理由

平成30年4月1日から、小学校において、特別の教科道徳（以下、道徳科）が全面実施となっています。これは、教育再生実行会議の提言や教育の充実に関する懇談会の報告、中央教育審議会答申「道徳に係わる教育課程の改善等について」を踏まえたものであり、道徳に係る「学習指導要領の一部改正」の告示、平成29年3月31日告示の小学校学習指導要領の全面改定によるものです。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標は、小学校学習指導要領にあるように「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことであり、道徳教育の要である道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことです。これらのことが、「道徳科で育成を目指す資質・能力」であり、児童一人一人の資質・能力の育成に帰結します。

本校の道徳性の実態を見ると、高学年（4～6年生）の児童が全国平均より望ましい傾向にあります（令和元年5月実施の道徳性アセスメントHUMANの結果より）。これは、6年間の道徳科を始め、教育活動全体を通じた道徳教育の積み重ねの成果と言えます。また、前研究（平成28年～令和元年）において、道徳の教科化に向けて授業の質的変換を目指したことに起因すると推察します。

このように、本校の児童は学年が上がるに連れて道徳性が高まっています。しかし、それが道徳的行為として表れているとは言い切れません。その要因としては、道徳科を要とした教育活動全体を通じた道徳教育の充実が十分に図れていないことが挙げられます。

こうした前研究の成果と課題、さらには全体研究主題を踏まえて、道徳科では、研究主題を「自己の課題を解決し続け、よりよい生き方を探究する学習－育てたい道徳性の諸様相を明確にした学びの連続を通して－」と設定しました。

「自己の課題を解決し続け」とは、「児童自身が自ら学び道徳的価値について興味をもち、自己との関わりをもって学習に取り組み続けること」を、「よりよい生き方を探究し続ける」とは、「他者との学び合いを通して、児童自身が道徳的価値について自らの考えを深め、他の教育活動での道徳的実践の指導と関連し合っ、一人一人の道徳性が高まり、その結果、道徳的行為として表れること」を表しています。

2 目指す児童の姿とその具体

- ①自己を見つめ、課題意識をもち続ける児童
- ②他者の考えと自分の考えを比較しながら多面的・多角的に考えられる児童
- ③学びを生かして「よりよい生き方」について前向きに捉え直す児童

上記は「①児童自身が道徳的価値に関する今の自分の課題を理解し解決しようとする心構えをもつ姿」、「②これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて、友達と対話したり協働したりして、物事を様々な角度から見て、考え、よりよいことを判断し、表現しようとする姿」、「③どうすればよいかわかっているけれどできない心を、少しでも前向きに捉え直しながら行動しようとする姿」を表しています。

II 研究内容の具体

1 育てたい道德性の諸様相を明確にしたカリキュラム構想

道德性の育成を目指した学びにおいて大切なことは、何を育てるのかを明確にすることです。つまり、道德科の学びを通して、道德的判断力を育成するのか、道德的心情を育成するのか、道德的实践意欲と態度を育成するのかなど、育てたい道德性の諸様相の何をねらって学びを構想するのかを明らかにすることが重要です。そこで、視点1では、育てたい道德性の諸様相を明確にした道德科のカリキュラム構想について研究を進めました。

2 育てたい道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」と「指導方法」の構想

道德性の育成を目指すためには、その要となる道德科の授業を充実させる必要があります。そのためには、育てたい道德性の諸様相を明らかにし、その諸様相に応じて「学習指導過程」を変えることが大切です。また、道德的価値に関わる事象について自分事として捉え、互いの考え、感じ方を交流できるような「指導方法」を選択することも求められます。そこで、視点2では、育てたい道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」(表1)と「指導方法」(表2)について研究を進めました。

	道德的心情	道德的判断力	道德的实践意欲と態度
【展開前半】	「登場人物への自我関与が中心の過程」	「問題解決的な学習が中心の過程」	「登場人物への自我関与が中心の過程」 「問題解決的な学習が中心の過程」
	共感的追求 (心情変容契機の意味追求) ＜発問の例＞ 「～はどんな気持ちや考えだろう」 「～は何だろう、なぜだろう」 「～はどうする(考える)か」	分析的追求 (乗り越えたい心の分析) ＜発問の例＞ 「～はどんな気持ちや考えだろう」 「～は何だろう、なぜだろう」 「～ならどうする(考える)か」 「～についてどう考えるか」	共感的追求 (心情変容契機の意味追求) 分析的追求 (乗り越えたい心の分析)
【展開後半】	道德的価値の表現場面を交流する。 自己を見つめ、思いを温める。 ＜発問の例＞ 「今までに〇〇したこと、〇〇がいいなと思ったことはありますか？」	同構造の道德的事象について話し合う。 生き方の今の答えをもつ。 ＜発問の例＞ 「今までに〇〇しようかどうかで迷ったことはありますか？」 「あなたは〇〇の場面ですみますか？」	生き方の今の答えをもち、 互いに交流し合い、認め合う。 より具体的な場面をイメージして、 どうしたいのかを考える。 ＜発問の例＞ 「これから大切にしていきたい〇〇はありますか？」

表1 学習指導過程

教具
心の円グラフ, 心情メーター, 表情絵, ネームプレート, 場面絵, 写真, ミニホワイトボード
思考ツール
イメージマップ(多面的に見る), バタフライチャート(多面的に見る), 座標軸(多面的に見る) マトリックス(多面的に見る), クラゲチャート(理由付ける), キャンディチャート(見通す)
板書
教材の話の流れに沿った板書(縦書き), 教材文中のAとBの違いを対比した板書(縦書き, 横書き) 授業前半と後半の考えの変化を意識した板書(縦書き, 横書き), 友達との考えの違いを対比した板書(縦書き, 横書き) 授業のテーマを中心に置いた板書(横書き)

表2 指導方法

3 よりよい生き方を探究し続けるための指導と評価

道德科における評価とは、児童の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、指導者の側から見れば、目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。したがって、指導者は、児童の学習状況を適切に把握し評価することを通して、児童に自らの成長を実感させるとともに、常に自らの授業を振り返りながら評価し、質の高い授業を目指すことが求められます。そこで、視点3では、「授業で見取る児童の学習状況の評価」と「学習指導過程や指導方法について指導者が自らの授業を振り返る評価」について研究を進めました。

＜1年次研究の重点＞

- ・道德科のカリキュラム構想
- ・育てたい道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」の構想

Ⅲ 研究実践

4年生実践 『友達への注意』 B 友情, 信頼

実践のテーマ：登場人物の心の葛藤について考えることを通して、友達との様々な状況下においてよりよい行動を判断する力を育てる学習

1 研究授業のねらい

本主題は、学習指導要領特別の教科 道徳編の第3学年及び第4学年における内容項目「B 主として人との関わりに関すること」の「(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」に関わるものです。

中学年の児童には、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことが求められます。しかし、それらを単に慰め合ったり、かばい合ったりすることと捉える児童が多い傾向にあります。友情を深めるには、上記のことだけではなく、友達のために思って忠告することも大事だということを理解することが、真の仲間集団の育成につながっていきます。

本実践は、道徳的判断力の育成を目指し「自分だったら間違いを伝えるか、伝えないか。」という視点で自己の生き方について考えさせました。友達との交流を通して、「友達にとっての善（本時では「料金不足を友達が知る事」）」とは何かに気付かせ、児童が様々な状況下において、どのように対処することが望まれるか判断する力を育成することをねらいとしました。

2 本主題に関わる学習構造図と構想図

4年 道徳科学習構造図

主題名「友達への注意」～B「友情, 信頼」 教材名「大きな絵はがき」

<p>【学校の重点目標】 「つくだす子」～自己の目標に向かって、強い意志と健康な体で粘り強く最後までやりとげろ</p> <p>【道徳教育の年度の重点】 社会の一員としての自覚と責任をもち、主体的に行動する。自分も友達も大切に、相手の立場に立ち、真心をもって生活をする。</p> <p>【中学年における年度の重点】 約束や社会のきまりを守り、自分の与えられた仕事は進んで果たすことができる。</p>	
<p>【学習指導要領との関わり】：第3学年及び第4学年の内容 【主題名】 友達への注意 【内容項目】 B (9) 友情, 信頼 【関連項目】 A (1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任 A (2) 正直, 誠実 B (7) 親切, 思いやり</p>	
<p>【学習指導要領におけるねらい】 友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。</p>	
<p>【価値観】 友情とは、慰め合ったり、かばい合ったりするだけのものではなく、ときには叱咤激励し合うことも必要であること、よりよい友達関係を築くには、相手にとっての善を考えて行動することが重要であることに気付かせたい。</p>	
<p>【学校の実態】 ・友達との助け合いを大切にしようとする児童が多い。 ・道徳性検査では、「友情, 信頼」に関して全国平均と同じ傾向にある。 ・日々の生活において「友達の間違い」を伝えられる児童が少ない傾向にある。</p>	<p>【他教科・他領域との関連】 ○日常生活～休み時間, 給食時間 ○チャレンジ学習「『川のまち旭川』調査隊」 ○特別活動～学校活動「教生先生を送る会計画」 クラブ活動 ○学校行事～12人組集会, 学芸発表会</p>
<p>【児童観】 「本当に相手のためになることを考え、相手の立場に立って言いたい内容を伝えていくことも友情であること」や「友達だからこそ（友達のために）」という思いで間違いを伝えることが友情を深めるためには大切であることに気付かせたい。</p>	
<p>【教材】「大きな絵はがき」（東京書籍P.123） 【教材の概要】 料金不足の定形外郵便ももらった広子が、送り主である友達の正子に忠告しようかしらぬかどうかと迷う話。</p>	
<p>【教材観】 広子は、母の「お礼だけ言っておいたほうがいい」という言葉と、兄の「悪告げあげたほうがいい」という考えの間で揺れ動く。正子と友達として過ごした日々を思い出し、きつと分かってくれると考えて、教えることを決めた広子の心の葛藤をしっかりと見つけ、本当の友情について考えさせたい。</p>	
<p>【本時のねらい】 正子から届いた絵はがきに貼ってあった切手が料金不足だったことを知らせるかどうかが悩む状況において、自分だったらどうするかを考え、交流することを通して、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うとする判断力を育てる。</p>	
<p>【学習テーマ】 みんなが広子さんだったらどうするかを考えよう。</p>	

主題名「友達への注意」～C「友情, 信頼」構想図

豊かな体験（日常生活, 他教科・他領域）	家庭・地域	児童の意識
<p>・生活目標と関連付けて指導することで、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことの大切さを意識させる。</p> <p>・互いに助け合うことで友達の大切さを実感できるように、児童に寄り添う。</p> <p>・同じグループの4年生と協力することで、主体的に12人組活動に取り組むようにする。</p> <p>・同じクラブの4年生と助け合うことで、友達のよさを発見できるように気付かせる。</p> <p>・学校の一員としての自覚をもち、教生先生を送るためには、どのようにしたら感謝の気持ちがあったか、友達と互いに理解し、信頼し、助け合いながら送る会に参画しようとする意欲を高める。</p> <p>・「価値の追求・把握」【展開前半】では、どんな道徳的問題があったのかを捉え、主人公が「伝えるか、伝えないか」で迷ったのはなぜかについて考え、道徳的問題を分析する。また「自分だったら間違いを伝えるか、伝えないか」について考える事を通して、道徳的判断を決定づけるものは何かを明らかにする。</p> <p>・「価値の主体的自覚」【展開後半】では、もう一度「自分だったら間違いを伝えるか、伝えないか」について考えさせ、「友達のために間違いを伝えることは大切だけれども、実現させることは難しい」ことを実感させ、児童自身がこれらの課題や目標を見つけられるようにする。</p> <p>・特別活動のねらいと関連させ、自主的、自発的な取組となるように計画し、助け合いながら、つくりあげていくことができるようにする。</p>	<p>【8・9月の生活目標】 「みんななによし運動」 ・友達と仲よく遊んだり、一人である子に声を掛けたり、お年寄りや体の不自由な人に親切にしたりして、身の回りに気を配って生活しようとする態度を育てる。</p> <p>【日常生活】 ・休み時間に、仲よく友達と一緒に遊ぶことで、友達との交流を深める。 ・給食時間に、協力して準備や片付けをしたり、楽しく食べたりする。</p> <p>【集会活動, クラブ活動】 「12人組集会」 ・中学年として低学年をまとめたり、高学年の力となれるように活動を進める。</p> <p>「クラブ活動」 ・望ましい人間関係を形成し、よりよいクラブづくりに参画しようとする。</p> <p>【特別活動（学校活動）】 「教生先生を送る会計画」 ・教育実習生と共に進めた学校生活や学習を振り返り、感謝の気持ちを表すための集いを友達と協力して計画し実施する。</p> <p>【特別の教科 道徳】10月 B「友情, 信頼」 ・教材名「大きな絵はがき」（東京書籍） ・ねらい 正子から届いた絵はがきに貼ってあった切手が料金不足だったことを知らせるかどうかが悩む状況において、自分だったらどうするかを考え、交流することを通して、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うとする判断力を育てる。</p> <p>【チャレンジ学習】調査隊 ・仲間と協力して活動し、「川まちクラブ」をつくり上げる素晴らしさを実感する。</p> <p>【学校行事】 「学芸発表会」 ・全員で「こんな発表にしたい」という目標をもち、自分たちの考えを出し合い工夫し、満足できる演目や作品をつくり上げるために、協力して取り組む。</p>	<p>・身の回りに気を配って行動しよう。</p> <p>・友達と仲よく遊んだり、いろいろな人に親切にしたりすることができるように行動しよう。</p> <p>・学校の仲間と協力し合うことで、やりとげることができた。</p> <p>・教生先生に感謝の気持ちを伝えるために、友達と協力して準備を進めよう。</p> <p>・友達と力を合わせながら、教生先生に感謝の気持ちを伝えることができた。</p> <p>・友達としてどのように行動したらよいのだろうか。</p> <p>・友達だからこそ、間違いを伝えてあげることが大切だ。</p> <p>・友達のために間違いを伝えることは大切だけれども、実現させることは難しい。</p> <p>・助け合ったり、間違いを伝え合ったりすることによって満足するものをつくりあげることができた。</p>

3 本時の学習

ねらい	正子から届いた絵はがきに貼ってあった切手が料金不足だったことを知らせるかどうかで悩む状況において、自分だったらどうするかを考え、交流することを通して、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする判断力を育てる。 補充 研究視点1		
事前の取組	【他教科・他領域との関連】 ・12人組集会ー同じグループ団の4年生と助け合いながら取り組む。 【家庭・地域社会との関連】 ・友達付き合いについてのアドバイスをしてもらう。		
指導過程	問題解決的な学習が中心の過程 研究視点2		
教具 ツール	イメージマップ	板書	対比型（考えの違い）：横書き
過程	児童の活動	教師の働き掛け・留意点等	
方向付け	<ul style="list-style-type: none"> ○友達だから言いにくかった出来事を発表する。 ・間違っただけをしていたのに注意できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題名「友達への注意」を提示する。 ・事前アンケートの結果を発表する。 ・児童の身近な生活の中の問題を取り上げ、問題意識をもたせる。 ○「友達だから言いにくいことはありませんか。」 	
価値の追求把握	<ul style="list-style-type: none"> ○問題点を考える。 ・切手の料金不足を伝えるかどうか。 <p style="text-align: center;">みんなが広子さんだったらどうするかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イメージマップを使って広子の葛藤を考える。 ◎広子の葛藤を考える。 ・これから先もいろんな人に間違っただけで送ってしまったのは、正子さんがかわいそうだから伝える。 ・友達だから、そんな小さなことは気にしない。許してあげるのも友達だと思うから伝えない。 ○送った正子さんは、どうしてほしいのだろう。 ・同じ間違いを繰り返したくないから伝えてほしい。 ・せっかく送ったのだから伝えてほしくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を読む。 ○「この話は何が問題ですか。」 ○「料金不足を『伝える』か『伝えない』か、両面から考えて、イメージマップに表しましょう。」 ・下段（広子の思い）、上段（相手に対する考え）。 研究視点2 ◎「自分が広子さんなら、正子さんに伝えますか、伝えませんか。」 他者理解・人間理解 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価場面① 多面的・多角的な見方に発展しているか。（発言） 研究視点3 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○「送った正子さんは、どうしてほしいのだろう。」 価値理解 	
価値の主體的自覚	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分だったらどうするかをもう一度考える。 ・正子さんのためになるから伝える。 ・伝えることが正子さんのためになることは分かったが、正子との今後の関係のことを考えると伝えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「自分だったら、仲よしの友達に伝えますか。」 ・自己の生き方について深く考えさせるために、もう一度、自己の考えを判断させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価場面② 自分自身との関わりの中で、深めているか。（ノート） 研究視点3 </div>	
意欲化	○教師の説話をする。		
事後の取組	【他教科・他領域との関連】 ・学芸発表会ー満足のできる演目や作品をつくりあげるために協力して取り組む。 【家庭・地域社会との関連】 ・家族の経験を交えながら、友達との関係が高まっていくような話題やアドバイスをもらう。		

4 授業の実際

育てたい道德性の諸様相を明確にしたカリキュラム構想（年間指導計画の見直し）

道德科では、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うために、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標としています。6年間の中で、上記の道德性の諸様相をバランスよく育むことが大切です。

そこで、研究視点1の取組として「内容項目一覧表」（表1）を作成しました。このことによって、内容項目毎の6年間の道德性の諸様相の系統を把握することができました。

「一覧表」を作成した結果、本校は、道德性の諸様相をバランスよく児童に育てていない内容項目があることが分かりました。たとえば、「B 友情、信頼」では、低学年で行う全ての授業が「道德的心情」を育むことをねらいとしていました。中・高学年は、二つの諸様相が位置付けていましたが、それらは一つの学年に偏っていました。また、「道德的判断力」をねらいとした授業は6年間で一度も設定されていませんでした。

教材には特性があります。ですから、教材によっては、全ての道德的諸様相を授業のねらいとして位置付けることが難しいと推察します。しかし、本校は、教育課程に位置付く教材がどの道德的諸様相を育むのに適しているのかを明らかにする視点が設定されていませんでした。そこで、「教材分析の視点」（表2）を作成することによって系統を見直すことが可能だと考えました。分析した結果、たとえば中学年であれば、表3のように改善できることが分かりました。

このように、「内容項目一覧表」や「教材分析の視点」を作成することによって、それらに基づいて道德性の諸様相を教育課程にバランスよく位置付けられることが分かりました。

令和元年度 内容項目一覧表			
B 友情、信頼			
学年	回	育てたい道德性の様相	教材名
1	1	道德的心情	ころはっば
	2	道德的心情	二おの ことり
2	1	道德的心情	ともだちやもんな、ぼくら
	2	道德的心情	森のともだち
3	1	道德的実践意欲と態度	いいち、にいっ、いいち、にいっ
	2	道德的実践意欲と態度	なかよしだから
4	1	道德的心情	大きな絵はがき
	2	道德的心情	ぼくらだってオーケストラ
5	1	道德的心情	心のレシーブ
	2	道德的心情	ころはっば
6	1	道德的実践意欲と態度	ばかじゃん！
	2	道德的実践意欲と態度	言葉のおくりもの

【表1 内容項目一覧表】

様相	設定に適した教材
道德的判断力	モラルジレンマやオープンエンドなどの葛藤教材
道德的心情	ストーリー仕立ての読み物教材
道德的実践意欲と態度	日常生活の問題場面を描いた身近な教材

【表2 教材分析の視点】

3	1	道德的心情	いいち、にいっ、いいち、にいっ
	2	道德的実践意欲と態度	なかよしだから
4	1	道德的判断力	大きな絵はがき
	2	道德的実践意欲と態度	ぼくらだってオーケストラ

【表3 中学年内容項目一覧(改善版)】

育てたい道德性の諸様相に応じた「学習指導過程」の構想

本校では、道德科における基本的な学習指導過程を位置付けています。展開前半は「価値の方向付け→価値の追求・把握」、展開後半は「価値の主體的自覚→意欲化」を行います。しかし、道德的諸様相には特徴があることを鑑みると、同過程の流れを継続しながらも、育てたい道德性の様相に応じて「展開前半」と「展開後半」の方法を変えることが重要だと考えました。そこで、道德性の様相に応じた「学習指導過程」を設定しました（研究視点2参照）。

本実践は、道德的判断力を育成することをねらいとした授業でした。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道德編」では、道德的判断力について「それぞれの場面で善悪を判断する能力」と説明しています。そこで、展開前半の「分析的追究場面」では、自分が広子さんなら、正子さんに料金不足を伝えるかどうかを考えさせました。その結果、児童は、よりよい友達関係を築くには、相手にとっての善を考えて行動することが重要だと気付くことができました。展開後半の「同構造の道德的事象について話し合う場面」では、展開前半での価値の理解を基に、自分だったら仲のよい友達に料金不足を伝えられるかどうかを考えさせました。すると、ほとんどの児童が「伝える」を選択しました。しかし、数名は「伝えることが友達のためになることは分かったが、そのことによって相手を傷つけてしまう可能性があるのでは伝えられない。」と答えました。この発言により、道德的価値は大切であっても、なかなか実現することができない人間の弱さを共有することにもつながりました。

上記の児童の姿から、本時の学習過程は、道徳的判断力を育むために有効だということ、さらには、道徳性の様相に応じた「学習指導過程」を設定することが、一人一人の道徳性を育むために効果的だということが分かりました。



【本時の板書】

IV 1年次研究の成果と課題

道徳科では、研究テーマを「自己の課題を解決し続け、よりよい生き方を探究する学習—育てたい道徳性の諸様相を明確にした学びの連続を通して—」と設定し、「育てたい道徳性の諸様相を明確にしたカリキュラム構想」「育てたい道徳性の諸様相に応じた『学習指導過程』と『指導方法』の構想」「よりよい生き方を探究し続けるための指導と評価」の3点を中心に研究を進めました。

1年次研究では、「年間指導計画の見直し」と、「育てたい道徳性の諸様相に応じた『学習指導過程』の構想」を重点として研究を進めてきました。

1 研究の成果

- 「内容項目一覧表」を作成したことによって、教育課程に位置付いている内容項目毎の授業のねらい（道徳的諸様相）や6学年の系統性を把握しやすくなりました。また、「教材分析の視点」を設定したことによって、教育課程に位置付く教材がどの道徳的諸様相を育むのに適しているかを明らかにすることができました。
- 「内容項目一覧表」と「教材分析の視点」に基づいて教育課程を見直したことによって、道徳性の諸様相をバランス位置付けることができました。
- 道徳的諸様相毎の基本的な学習指導過程を設定したことによって、教育課程に位置付いている授業が、ねらいに即した学習の流れになっているかどうかを確認することができました。また、その過程に沿ったものに改善することもできました。

2 今後の課題

- 「展開の概要」に位置付けられている「学習テーマ」や「中心発問」が、ねらい（道徳的諸様相）に即したものになっているかどうかを見直し、洗練させていくことが必要です。
- 育てたい道徳性の諸様相に応じた「指導方法」として位置付けた教具や思考ツールの活用が、どの諸様相をねらいとした授業で効果的に作用するのかを分析する必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 廣済堂あかつき 平成29年6月
- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 平成28年7月22日
- 初等教育資料No. 973「新学習指導要領に向けた指導の在り方『道徳』」
文部科学省 東洋館出版社 平成30年11月
- 「特別の教科 道徳」で大切なこと 赤堀博行 東洋館出版社 平成29年11月
- 道徳の評価で大切なこと 赤堀博行 東洋館出版社 平成30年11月
- 思考ツールでつくる考える道徳 黒上晴夫 編著 小学館 令和元年7月